

岐阜県割石温泉における湯量変動の観測

Underground Water Observation in Wari-ishi Hot Spring, Gifu Prefecture

田阪 茂樹 [1]; 佐々木 嘉三 [2]; 松原 正也 [3]; 松本 則夫 [4]; 新谷 昌人 [5]

Shigeki Tasaka[1]; Yoshimi Sasaki[2]; masaya matsubara[3]; Norio Matsumoto[4]; Akito Araya[5]

[1] 岐阜大・総合情報メディアセンター; [2] なし; [3] 岐阜大・総合情報メディアセンター; [4] 産総研地質; [5] 東大・地震研
[1] IMC, Gifu Univ; [2] none; [3] IMC, Gifu Univ.; [4] GSJ, AIST; [5] ERI, Univ. Tokyo

岐阜大学では、岐阜県飛騨市神岡町割石温泉において、自噴している湯量の連続観測を実施している。地下850mから自噴する湯量は電磁流量計を用いて、1998年～2004年までは10分間隔、2004年からは1秒間隔で0.25%の精度で計測されている。湯量変動の観測結果は、滞水層の間隙水圧の変化を介して、地球潮汐や地震発生にともなう地殻ひずみと関係していると考えられる。

本研究の目的は、地震予知の観点から、湯量変動と地震波・地殻ひずみの関係性を明らかにすることである。

解析は、1) 流出量に変動を及ぼした地震の震源距離とマグニチュード、2) 流出量と地球潮汐にともなう地殻ひずみ、3) 流出量と地震波、4) 流出量と地震発生時の地殻ひずみについて行われた。